

「四季・植物」 26 薄

学名 Miscanthus sinensis Anderss.

イネ科多年草

名前の由来については様々な説がありはっきりしない。

郷土資料から見た「^{すすき}薄」のあれこれ

8月27日は尾花まつりの日である。この日は赤飯をたき、薄で作った箸「カヤ箸」と尾花の穂をそえて神棚に供え、赤飯を食べる。このカヤ箸はこれらのお供えが済むまでは使ってはいけないとされ、この日から山仕事に行った際にカヤ箸を使って食事をしてもらいといわれている。

この尾花まつりが諏訪社の祭りに関わりが深く、三階節に「諏訪まつり いいおこわ おこわに^{かや}萱ばし 尾花のお花でまつりする」とうたわれており、赤飯に萱ばしと尾花をそえて神社にお供えをする地域もある。

薄は「萩の花 ^{なばな}尾花 ^{くずはな}葛花 なでしこの花 ^{をみなへし}女郎花また^{ふちはかま}藤袴 朝がほの花」と万葉集に詠まれたように秋の七草の一つであり、中秋の名月に供えられ伝統的な秋の風物として親しまれてきた。また「萱」という呼び名で、屋根を^ふ葺いたり炭俵を編む材料にも使われるなど、有用植物として利用されてきた。

薄は花穂がでているときは「尾花」と呼ぶが、民俗学的には「萱」と呼ばれることが多い。

参考資料

「柏崎市史資料集 民俗篇」	柏崎市史編さん委員会編	1986	「新潟県史 資料編22」	山田良平著	1982
「日本民俗大辞典」	吉川弘文館発行	1999	「図説 花と樹の大辞典」	植物文化研究会・雅麗篇	1996
「柏崎・刈羽の山野草」	柏崎植物友の会	1986	「日本大百科全書」	小学館発行	1994